



嬰女鳴館遺草

二

山 4

9
3521
2

學大田稻早
館書圖
庫文田內者托寄
號00一第書托寄
號 / 2 第
冊 2 第



9
3521
2

カ邊
2933
6-2

内田

嚶鳴館遺草卷第二

上の民の表

○この上の民の表と云うて君一人の美人の的と
なる所の故よ人の徳と明德とも顯徳とも
稱して君にへ廣く推挙し誰をも受けて心を
なやました明白よけひをよとて人の君の上よと
人よとせば一徳をよとてはよとてかす所の
うけすすうぬとて然るを人よとては
も聖人よとては美徳とては備りぬと



大正十年九月廿四日
内田糸子氏贈

山本海之内

起つたの不徳も形一といふことい存よ希なるれ
 こころの人の長のを事いあるの不善とわじしるの
 善を顯して是愛人の感後する爲うみこらぬ
 たると忠信いふこと然るよたさるもの人の
 いうもよ死はあめち事た人の耳目や何
 としちつことさるこいひしたるや一世はあつて
 善行いとも志あふとい志あふとそれとおい
 成してつこと一は爲うよすことといつた事して
 うよそいふらぬたうことそのそや或いまよ死
 といふちつことす成くも一仕途ぬんこと時の

却て老の清と交のい存るこやてよ死をよす死
 のいぬ爲うみこころちす長下も多くいさる
 こと是非又さあふらぬ遠さるく一は来るえさる
 善のいとも好さるよす一死をさるく一程交思あは
 其一練勤きりて柳の善ともさるこいひさる
 事一ことそれよもめ事善なるらひひかきん
 とい是非とれきこといひつこといひ死をさして度
 二度二事い事いとも善のいよ形一たよとい
 始終いひつとも善のいよ事いひつこといひかきん
 たることいひつこといひつこといひつこといひつこと

是をばたぐ妨ぐやわらうくを世上もさへん
 とうりうりうりうりうりうりうりうりうり
 いうれも水臭さ玉極るるへ酒宴遊興曲
 乱舞の節の公の戒めをいへ禁一並にいて
 人君の徳をいへいへいへいへいへいへいへ
 らまうらまうらまうらまうらまうらまうら
 茲後乃世立流と好むる公の制もさへいへ
 らるると道路の耳目よかきこもいへいへいへ
 として諫る臣下もさへいへいへいへいへ
 よきて存のま本もさへいへいへいへいへ

立るへん時よ珍りく人の徳をいへいへいへ
 此のうりうりうりうりうりうりうりうり
 よ難をおそれ帰るるるるるるるるるるる
 ふつへいへいへいへいへいへいへいへ
 孝に人長の君はいへいへいへいへいへ
 其美を將順一其悪と匡救すくありき美と
 お順すく人君のよ死命令の来よ交をいへいへ
 こそ其悪を匡救すく人君をいへいへいへ
 とうりうりうりうりうりうりうりうり
 中はぬいへいへいへいへいへいへいへ

善は善めあつてもとらふや。事りてつすの善は
一尺もそたて聊も不善あつても念比は練防て
きすのあつて五分のうらよと極ひ増長をわくぬ
るうよこらなすすこと忠臣の節られよす死
たうんさう一人も善な好まそんあつても事りて
ふぬ遠く所より忠臣の法よ背きしりて皆
さき不学無術より出ることさるんはなすき
次中あり文王の大聖人されとも疏附先後奔走
禦侮と云てその四種の長なそれへ持たふるは以
て周家八百年の業な無くするひりて疏附と

いふ下な率て上なさくは偏しむらなりよと
ありて善くも氏との弁よちて下の上よおのひ
つきさるやうよ下くのふとさうふもさ先好
とさうお守てお後するとさうありてそのの
前あつて後よおりて沛あやもちのなきやう
ゆふなひき操な押して善くと善くよなすき
そりてさ奔走する徳な喻へるな述ると云て
世上なまのりおりてその善徳なあつてあつて
徳所地玉のくまも我善の徳と云てひさるやう
よ吹徳すると云て禦侮とさう武臣折衝とさうと

○下級を率て上級親をむとす入して為す或
 ちの中よまてて政事よあつらふ士大夫何事ん
 けらぬと申すへしとす一好く中よたら
 士大夫何事ん下のとらとらひて上と親と
 するもあつらふとらとらひて上と親と
 下のうとらひて上と親と
 好く申すへしとす一好く中よたら
 先申すへしとす一好く中よたら
 美徳とほつらひて上と親と
 大事よなる忠臣よも海へつらひて上と親と

形を徳に仿らるゝ入て下へ好く申すへしとす
 申すへしとす一好く中よたら
 顯する人好く申すへしとす
 中庸よもあつらふとらとらひて上と親と
 好く申すへしとす一好く中よたら

○相導て前導するといふ事す入して為すは
 臣下の忠告も申すへしとす一好く中よたら
 忠臣公親と申すへしとす一好く中よたら
 へとらひて上と親と
 忠臣の良謀と盡して君が賢明よ誘ひきたる

と元來その性質美しき徳のありて老練の
臣よすぬりしるすいづれもよき事なり
礼儀におききるひしる事

○徳を喻し譽と述ふしる事と大事よなる
らうらるるの美徳と存向へ吹徳しる事
しる事よあはれしる事よあはれしる事よ
ひしる吹徳すしる徳の如き事と人まよしる事
はしるしる事と黙するよりおらるしる事
しる事よ美目しる事しる事しる事しる事
しる事よ自己の可なりしる事しる事しる事

但し邦志の清身のうらふし吹徳すしる事
徳の世よまされしる事しる事しる事しる事
男子の義しる武のしる事しる事しる事しる事
しる事しる事しる事しる事しる事しる事
爵位のしる事しる事しる事しる事しる事
しる事しる事しる事しる事しる事しる事
世態の苦もあはれしる事しる事しる事しる事
しる事しる事しる事しる事しる事しる事
しる事しる事しる事しる事しる事しる事
しる事しる事しる事しる事しる事しる事
感慨より出たるしる事しる事しる事しる事

子辰のありあるはぬものなほ推せし吹徳もさる
 ぬことさるる剣槍の術もさる大振る人の海
 骨の氣力のうたげもありてあはる可き
 とりあふともさる骨健なる昇賤の人の目録位
 ねして人の好むものぬものねさるは又はひらく
 吹徳もねぬこと海してさる容顔美し
 元及つき立流よ立止りもさるぬも意氣費ぬよ
 見えぬものさるは又はひらくは又はひらくもさる
 子さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 て飲食よねさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

又よひさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 下さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 皆勅しつげし菜は甘しつ毒つ毒よ安しつ家
 つ類しつさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 多分ねれさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 ねしはさるさる吹徳とすさるさるさるさるさるさるさる
 善徳と生れつきさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 ねさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

國に保ちたる者なりといふより賢なる人と
 してはもとの徳とありし福すといふより一徳之
 ちの徳成とありたるをいふ福世界ひろく福
 揚とてもふ人なり世にあらばかゝるけちを
 敬ひていふなりて福世もいふかゝる福にて
 千秋万葉現にいふすこゝに存するこそ若と
 かゝる世にたもていふなりとあらばより
 外に諸侯貴人のうらやま目とすといふこと
 なきことなる人貴人のうらやまを飲徳すといふ
 る起るのありあゝといふことなり

此の書は... (Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

教學

玉不磨不成器人于學不知道成よいかへん
 聖王賢者あつては學を文に建てて人を知る所
 とす天子の學士官と辟雍といひ諸侯の學宮
 或泮宮といふ何れも德行道藝と教ふる所也
 この禮古所よし古聖王の所な修めんと治め
 る中必家と安定をみるひ一をと學のひをりて
 其修めぬの友職とつけてまの政をもちり中民
 を教ふる守き保つていさむる役人といふ事
 なり凡人の生修め善者なりといふこと古の所

規そのひをりてこれと思ふ通融することありては
 自己の心と情を定規にして人と取扱ふゆゑ也
 たといふ所へてなるとして南あるものと作り
 ぬきまゝに形して圓なる物と作るやその
 人々の目分るなりと以て作り出すことあり
 定規といふものもさう其の所へ生れありや
 此身といふもの之出來より次者よくと死扱つて
 下の心と心次者よして善惡邪正といふ死すす心
 つきこらまられること死す出る時より後人も何と
 いふ心扱もさうして何れも死す次者よと思案と

わん~~~~~とあよこ~~~~と同合せ被合もた耳学
 同目切者として南産たりのをすこもちはる死を
 せよするあよ年中有りるき苦方とすこと
 せん~~~~もるき~~~~法度いすこね役人か大工
 下民の材木のや~~~~すこねあました大工とく
 大工あました材木とく~~~~造作とす人~~~~又
 すこね~~~~大工下子~~~~材木あ~~~~
 何とひて細工の手邊とてす人たされんすこね
 大工材木三つ材を~~~~あま子のた人~~~~の
 考きより下民のいや~~~~あ~~~~の~~~~

すこ~~~~古の聖王愛を~~~~下王家は治わ~~~~
 掟い~~~~ひ~~~~すこ~~~~のすこ~~~~と能き
 是る~~~~上子大工と~~~~周礼は師氏保氏
 ち~~~~の職の人~~~~六儀等とある
 法い~~~~上子大工とある法之郷士州長
 より~~~~の職分い~~~~勅方い~~~~
 大要い~~~~徳の~~~~
 民~~~~材木と考~~~~法~~~~
 賢~~~~と~~~~
 く~~~~ぬ~~~~

て実あるを死とて或とあむとてとて金銀
米穀とて死あつて一時の飢を救ひるふ
れとよあつて民の罪は落へその多死を救ひ
たひて是よ吾死あつて自然上の刑戮
よからぬをうけとてりひるふとて下民を
上の救ふとて死を何の罪とて智もさく生涯
死もさく生涯とて死あつての生活をさ
くふの無上の仁政を夫の忠告之人の忠告と
陰陽の氣の物は布あつてる死は死の節
たをさくして深山大海のくぬくまで竹木花草

おのころく一葉一葉りて是をさるる良材哉とて
毛をたちてふは夫のすまぬはふ何んか
かんたのころもあつて易く造作も調ふ無
下民の材木とてつる政の教養の友を徳けて
曉諭の法を度くするぬとていささか一葉
教養形れんよ死を死にせしより生して人と
愛するたを以て下は取扱ひ曉諭の友四方を
死して生をさるる下より順位の民を以て
ふと死す死をむへ一君子學道愛人小人
學易徳と孔子もよく徳ひ布

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

政の大體

政とすは小大體よありされい名ふの仁これ由意よ
れと止りて廣大の徳り及らずりよ此并ふ先
天地とかんうきりよそ徳春暖夏暑秋涼冬寒
の是たることす山川系流の宜とたうとるまて
少て人のきりよとるよれ春の暖とゆて種を
知るし夏の暑とゆて物と長し秋の涼とゆて
実のり冬の寒とゆて取れ畝少人麻麦を
う急水より稲と植ておのれくちや起とゆて
衣食のやふと梅へ出しそれと所よ是し一はよ



食して生じて一ヤリヨクは時の運ち地
の宜と遠くをめぐりて地の徳をたたく
動きて働きて常りく日と生じて通るる
もも年々くは旅よんて運地宜の大徳とけ
形くも今日人自らの働きてつくるは
んは物たりて地と拜し礼とヤリんともくうと
つ生じて一ヤリヨクはすくはるる地の大仁
まを廣くする所りては人徳よまをひて
下第武清教とて性命と守り一生と善
も先その如く誰の徳もくはるる精とん

出せしつ生いん安く善くはるる地
のふり人の恩海とては地宜よりあつ
恵といふ人限有るは一里よりたれと
十里より十里より十里より五千里
あまぬくぬものやては地宜と平等
はるるは地宜とては地宜とては地
てしとては地宜とては地宜とては地
地宜と

○為政在於得又とて止りては地宜
福の仁らあつては地宜とては地宜

ゆふきめ後人未熟し心産ゆてん思慮の下よ面
つまじらんきくしん流し仁を抱一てりしん先きめ
後人と心産し仕ゆり神あて心産ゆてめ後人と
心直し仕ゆり貪欲の心産ゆてりしん心産ゆ
貪欲の心産ゆてりしん心産ゆてりしん心産ゆ
心産ゆ心産ゆと云くをりしん心産ゆとあぢしん心
云くをりしん心産ゆ心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心

ゆふきめ後人未熟し心産ゆてん思慮の下よ面
つまじらんきくしん流し仁を抱一てりしん先きめ
後人と心産し仕ゆり神あて心産ゆてめ後人と
心直し仕ゆり貪欲の心産ゆてりしん心産ゆ
貪欲の心産ゆてりしん心産ゆてりしん心産ゆ
心産ゆ心産ゆと云くをりしん心産ゆとあぢしん心
云くをりしん心産ゆ心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心
心産ゆの心産ゆと云くをりしん心産ゆと云くをりしん心

吾れを義の人の敵討とてよく退るは事よ
 以て大抵世に仁人の名をうけ仁政の行は
 ずしてはよくある事あり南の浪人たるも
 やうやくと便と先と志のふり善と揚と
 明と善とす悪と退ると敵とす風と移
 俗と易とす善と揚とす善と揚とす
 と揚と善人の名と化して人の衆の率論と
 ありありとある事あり格別たる事あり難及俗
 事ありありとある事あり格別たる事あり難及俗
 事ありありとある事あり格別たる事あり難及俗
 事ありありとある事あり格別たる事あり難及俗

の所を威の畏き徳の懐く事あり人を知るは事あり
 のふれつ柄と畏きといふを懐く事あり
 中として政令の行はし根本として仁義勇
 の三と三徳徳と組合をのびて善とす
 て中して義より仁を進退なむ事あり貴爵と敵と
 仕ゆ所人衆を清慮とすなり金湯の風あり事あり
 自然と下とありのあたり西道にお成り月民間
 何とれとありやうにお成り事あり徳の五とあり
 事あり事あり事あり事あり格別にお成り食の
 事あり事あり事あり事あり事あり事あり事あり

是くぬあよるなれん人よつれきくぬのぬあ
一身のぬあしむり花より出れしよ
うぬこの衣食のぬりの種よりぬの聖の民の
あり貪欲よりなまぬ人の上も相成るぬあ
中ゆものよるなれん人よつれきくぬのぬあ
政のかききより起すゆ風儀よりなれん
この風儀よりぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
おぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあ

○人の善と賞と悪と罰と
んれよるなれん人よつれきくぬのぬあぬのぬあぬのぬあ

可罰悪人のたえぬゆ何れとせぬ賞の
そへ人の仕合よ止す罰に他人すぬ賞の
ぬよるなれん人よつれきくぬのぬあぬのぬあ
有るぬのぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
顔するとなれぬぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
を死と仕合よとぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
支配しぬ出れしよぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
ぬのぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
吟味定すぬぬのぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあ
ぬのぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあぬのぬあ

相成り申すは極の孝らと見えたりしを
 人情自然と感服仕りし物入造作も厭ひ
 不中しきよき産れ但し右所の善人のまゝ
 事出りしを指し上りの化しと受け申す
 少くも大概のこころ先をうらやま打拵並に
 色多く有しりし不孝不忠不節のこころ
 町村も孝く厄介にお成りし第一のこころ
 仕出りし時の産物組合の者まゝ大なる
 義りしと成りし物入造作の子万途慈ま
 を恐れしりし一日も早く出りしよき

且又その悪人の法度と犯し申すも
 ようしりし出りし御参りし事ありし
 候之悪人の年々多きその善人のたゞ
 ものとせし存知の儀よりお成りしよ
 善人より出りしその支配したる者
 を受りしよき善人の年々多き縁
 然時善人と多きその風儀も移り
 可なりしよき善人多く申す
 不評御意成りし御上の財用も多
 よき善人の有るも善人の

貴とあるはふり少分の儀とて其貴と云ふ
 ものの姓の似たりとて耕作とて世に町人の
 いろく高買と出精仕とて其よ自然と上の
 以物入と仕出と換とて中やうなる不面を
 仕出とて中やう悪人とて何れ何れを中やうなる
 かく役廻り吟味とて其味とて中やうなる
 根氣なとて筆紙書と費とて片やうの程に
 相違の以仕置の作れれと上上の換が多き
 此とて中やうなる向隣の親類とて其も
 中やうなる其も中やうなる其も中やうなる

二人とて肉と玉中とて人びととて民をさう
 志すひ中とてとして刻右の費の再ひ志すひ中
 無きくか爲うの所通例の役人の中やう悪
 人の中やうなる其を治とす善物入とす善
 と其も中やうなる其も中やうなる其も中やうなる
 茶海の小玉とて所は市三郎とて百姓孝の
 ものの中やうなる其も中やうなる其も中やうなる
 中やうなる其も中やうなる其も中やうなる
 持言と孝子作りぬと其も中やうなる其も中やうなる
 中やうなる其も中やうなる其も中やうなる

家を何事も承りて一通りおぼたは併年々
孝子へ作し取より付りて拾年廿年とて小正
三万石の月主の減中万石の何年是と手本
よ見習ひて習ひりて田地と作り取よ手本
居りたる孝子の五千も百も出たり家玉の大き
けしきくはか居りては獲りてともありて人か感
する福の孝女のいんて好きぬものよ小正又十年
廿年よ子も取より上の費なるときてやられたと
ひ心き入の減やるとも市三郎の米の清玉の米
よと市三郎と見習ひ一郷一村とて百姓たう

毎日一畝宛余計耕しりり小正中よと日
或三万畝の増しやると左りり五石十石の年々
よ作り増しやると子も取よりと市三郎の持言
少分よと取せりて百石目を持居りり後取も
目立やると一入人もと居りて事よと
中絶りりり大長の存意大難よと取ひり居り
よ事なれり

志うるみまめ代友のいづつと権威成れん
みして下より悪事の出来る時と吟味して
仕置成加ふる役とくもり存し百姓成さく事
とくして年貢未進と取立ると今日の存
と成らん得たるん歩まり成るまで後し成
下よりとくより存理とされひ無くする侍と
の義と存し礼成りて上下方成れん討る
抑する一死らんるるたおのましく身は今
日成安樂よくして一生成らんくつりく
るより外は成らんる成るのこ然るゆゑよふた

立てられ成司るまめ代友とくものなるれん
く身勝手よれも成りゆきこした立ゆ一財
上の為ととくす人の上ととく舞りてす
く成らんより成てとくく己身ひつり
成らん得たるんす終らんす成と仕出成て
年と刑戮とと成らつるん成よまめ代友是と
成結成きと人万んもろもちよるりお互よ立
ゆやうみく成り成え成り抑しまや成り
指場と加へて百姓の事とゆるめ成るやうに農
業成すや成りて衣食の源と成まゆ一性命

の根とかけしするは組一人情の智あると
 悪るるも仁愛より別を被さぬものなるれん先
 才一は仁心と考りて下成いころるを法
 とむるはとよ死後人と循吏良吏といふありき
 後人と酷吏賊吏といふ循良の吏の正直不欺して
 法度とていはす不義非乃の指身は七次慈悲
 柔和よ下と取扱ひ上の事よいんとして下成く
 然しやす下よほやきんとして上とあはむうす
 家玉ゆくす柔の利害と案考つて後目或勅
 る人といつて酷賊の後人の貪欲偏頗して法度と

まの威勢と以てむらうき下初と加へ眼あ
 の手扱と考りて家玉ゆくす急の利害とて
 又す立身出世とん勉るものといふくあるよ必に
 循良の後人多る事と君上の徳澤柔氏よりこれ
 けりて人々悦ばするあると地非明も福慶と
 降きて家國富強安業すると響音の考りて
 すうらぬ酷賊の後人多る事とある上君恩重
 下氏よ降ぬすある事ありしむるあると地
 非明も殃と降しある事弊危亡するこく教を
 形よ成ふらぬとあると二とて一毎へありて

職分よりいれざる人な忠良の臣と稱して
家國の玉寶とすべしと教ふ

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the printed text above. The characters are faint and difficult to read precisely, but they appear to be a vertical column of text.

嚶鳴館遺草卷第二

